

令和4年度 第3回下松市地域公共交通活性化協議会

議事要旨

○日時：令和4年12月23日（金）10：00～12：00

○場所：ほしらんどくだまつ サルビアホールA

○出席委員：17名（欠席5名）

真鍋委員、河合委員、河内委員、中村委員、清水委員、田中委員、岩本委員、相本委員、古田尊委員、瀬来委員、山田委員、弘中委員、久保田委員、田川委員、古田健委員、安野委員、金織委員

○事務局：企画政策課

○オブザーバー：株式会社バイタルリード

1 開会

2 議事

(1) 地域公共交通確保維持改善事業・事業評価

米泉号の利用状況について

- ・資料1-5を基にバイタルリードから説明。
- ・年間利用者数は2,435人で、コロナの感染拡大時は利用が減る傾向がみられた。
- ・北エリアの運行日である月・水・金の予約運行エリア利用者が少ない。
- ・便別では、2便が最も多い。一方で、3便、4便、7便は1便あたり1人未満となっている。
- ・予約運行エリアは利用者2人の方だけで総予約件数の75%を占めている。

米泉号の運行に関するアンケートについて

- ・資料1-6を基にバイタルリードから説明。
- ・米川地区の209世帯に実施し、アンケート調査票とともに米泉号乗換時刻表を同封して周知を図った。
- ・半年以内に1回以上利用しているのは22.9%、そのうち約4割は月1～2回の利用頻度となっている。
- ・米泉号の利用目的は通院・見舞い、買い物が5～6割ずつある。数は少ないが、通勤や通学での利用者もある。また、約4割の人が、鉄道や路線バスへ乗り継いで利用している。
- ・米泉号のサービス評価では、運転手、乗換案内、運賃、停留所については肯定的な意見が多い。一方で、運行時刻、路線バスとの乗継については肯定的な意見が少ない。

事業評価について

- ・資料1-1、1-2、1-3、1-4について市から説明。
- ・地元住民のニーズ把握のために、7月に米川地区にアンケートを実施した。
- ・1ヶ月当たり利用者数として106人を目標としていたが、コロナ禍による外出自粛

等の影響もあり実績は63.4人で、目標達成できなかった。

- ・乗換方法が分からないという意見があったため、アンケートと共に乗換時刻表を全戸配付した。
- ・デマンドエリアの予約者が少ないという現状を踏まえ、新規の利用者獲得のため、今後の改善点として、予備車両による試乗会の実施も盛り込んだ。

発言者	発言要旨
会 長	質問、意見はないか。
委 員	資料1－5の6ページ、バス停別の利用状況について。周南記念病院は行き の便の利用者に対し、帰りの便の利用者が少ないと書いてある。帰りにいい 時間の便がなくて利用者は不便されているのではないか。
事務局	診察が終わる時間が未定だったり、ちょうどいい時間に便がなかったりす るという意見は聞いている。アンケート結果を踏まえて、帰りの便が改善で きないか検討する。
バイタル リード	以前に実施したアンケートでは、帰りの時間が読めないから利用しないと いうケースのほか、病院からサンリブへバスやタクシーで移動し、サンリブ から米泉号に乗って帰るといったケースもあった。サンリブは行きの便が少 なくて、帰りの便が多い。
会 長	利用状況についてはコロナの影響があるのではないかと思う。資料にもあ るが、今後免許返納したときに利用するから続けてほしいという意見もあ る。家の近くまで来てほしいという意見については、公共交通と別の施策も できるのではないか。 軽微な修正は事務局の責任で行うということで承認していただけるか。
	(全員挙手)
会 長	全員挙手と見受けられたので議事1は認められたということで、支局へ提 出する。

(2) 下松市地域公共交通計画について

地域公共交通計画の策定について

- ・資料2－1、資料2－2、資料2－3、資料2－5を基に地域公共交通計画の素案につ
いて事務局から説明。
- ・前回協議会の資料を基に素案の形として提示。第4章：計画の基本理念・基本方針と目
標、第5章：事業・評価方法を追加している。
- ・事業として、下記を設定している。
 - ①幹線の維持・強化
 - ②交通結節点の機能の維持・強化
 - ③支線の維持と見直し
 - ④実情に応じた多様な輸送資源の活用
 - ⑤待合環境の整備や車両等のバリアフリー化
 - ⑥公共交通に関する情報発信の充実

- ⑦公共交通サービスのデジタル化の推進
- ⑧モビリティ・マネジメントの推進
- ⑨公共交通の日常利用の促進
- ⑩公共交通の担い手の確保
- ⑪沿線事業主体や地域住民等との連携強化

発言者	発言要旨
会 長	<p>目標は大きく3つに分けている。</p> <p>1つ目はダイヤや結節点等に関する難しいところ。下松市に新しい都市計画道路ができているのになぜバスが運行しないかという意見が議会でも出された。どこを走らせたらいいいのかを聞き取り、事業者との話もする必要があるし、商業施設や公民館も新しくできて市民の行きたい目的地も変わっていく。1番重要で厳しいところだと思う。</p> <p>目標2つ目についても、バス停に屋根を付けたり待合施設を作ったりできないかという意見が議会でも出された。これもなかなか難しいのは承知している。以前に商業施設の中で待合できるような協力をいただいたことがあるが、こういった工夫が必要なのではないか。また、車社会の意識改革が必要。確かに車は便利だが、どうやって公共交通のファンを増やすか、まずは1回でも乗ってもらえるような新たな工夫が必要。施策としてモビリティ・マネジメントにつながっている。</p> <p>目標3つ目は新たな観点となっており、担い手確保などについても新たに取り組む。また、地域の資源を総動員し、いろいろなものを組み合わせてどう対応していくのかという話。</p> <p>アンケート結果や前計画の振り返り、社会の状況を踏まえて今後5年間の取組をお示したところ。市だけでなく、事業者が主体的に関わったり、市民が協力したりするところもあるので、ご意見をいただきたい。</p>
委 員	<p>基本方針に対し目標があり、目標に対し事業があるのだが、「検討します」「研究します」という表現になっている。「実施します」にしないと物事が進まないのではないかと。やるんだという意志が弱いという印象を受ける。</p>
事務局	<p>おっしゃる通り、事業の中身について「検討します」「研究します」という表現が含まれている。この計画はマスタープランであり、個別具体的な計画ではないので、こういう表現になっているところが多くなっている。後ろ向きということはないが、どうしてもこういったニュアンスになってしまうことはご承知おきいただきたい。</p>
委 員	<p>デジタル化の研究とあるが、実際にはすでにもものすごく進んでいる。具体的にここまで行きますと言わないと進まないし、数年後にこの成果が何だったのか、何をやったかわからない、研究したけどどうなるかわからないといったようになることを危惧している。目標値をはっきりしないといけない。</p>
事務局	<p>デジタル化については具体的な内容になっていないが、この後で説明する目標値においては、デジタル化を進めることによる公共交通利用者の増加</p>

	<p>も見込んだ目標設定としている。世の中のデジタル化は進んでおり、市内を走る鉄道や路線バス一部についてもすでにICカードを導入されているところだが、基盤整備も重要で、やはりハードルが高い。世の中で浸透しつつあるところではあるが、まずは研究からとしている。課題があつての施策であるというのは承知している。資料2-2の55ページには関連する課題として番号を示しているので参照していただきたい。</p> <p>目標値についてはこの後で詳しく説明をさせていただく。</p>
会 長	<p>委員の意見はよくわかる。具体的な策が示されていないということだろうと思う。5か年計画であるので、市の予算も含めて、この年度はここをやるというように具体的になっていくと思う。より具体的な内容については、次年度以降この会議の中で出していく。</p>
委 員	<p>全体的に写真がとっても古臭い。例えば14ページの写真は駅もバスも古いのではないか。</p> <p>スマホ教室の事例として、社協だよりが使われているが、許可をした覚えがない。</p>
会 長	<p>全体的に写真が古いのではないかとの指摘と、社協への許可についてということであるが、事務局どうか。</p>
事務局	<p>載せている写真については改めて確認をする。</p> <p>社協の写真については、社協のHPに掲載されているものであるが、許可を取れておらず申し訳ない。あらためて許可をとらせていただく。</p>
委 員	<p>事例として他市のことがたくさん載っているが、5年間の計画で、これでいいのか。例えばコミュニティバスでも美祢市の事例が掲載されている。</p>
会 長	<p>各地に先進事例があるので、具体的なところを出した方がわかりやすい。また、実際に取り組む際に事業者と話をする必要はあるが、その時に参考として取り入れるためのものである。事務局、いかがか。</p>
事務局	<p>その通りである。</p>
委 員	<p>補足する。資料2-2の48～51ページにあるように、路線の位置づけや国の補助について記載していただいている。記載が必要な事項は網羅されていると思うが、何をどこまで書けばよいのかは中国運輸局を通じて本省に確認中の部分もあり、この辺りの書きぶりについては、今後微修正をしていただく必要があることをご承知おきいただきたい。</p>
事務局	<p>計画への反映を急ぐ場合は書面協議も視野に含めて進めたい。</p>
会 長	<p>他に意見はないか。</p> <p>ないようなので、次に目標値について進めさせていただく。</p>

評価指標について

- ・資料2-6について事務局より説明。
- ・全体的な指標が3個、目標1-1～目標3にかかる指標が10個で、計13個の指標を設け、それぞれの現況値と目標値を設定した。
 1. 公共交通の年間利用者数

2. 「鉄道・バスなど公共交通の充実」に関する施策に満足・まあ満足と回答した市民の割合
3. 公共交通の維持にかかる行政負担額
4. 幹線バスの運行便数
5. 交通結節点としての機能の整備件数
6. 支線（市内完結路線）でJRへの乗継を考慮した便の割合
7. 交通空白地の居住人口の割合
8. 待合環境の整備件数
9. ICカード利用率（路線バス）
10. 乗り方教室・出前講座の開催回数
11. 「日常生活における公共交通利用頻度」について週に1～2日以上と回答した市民の割合
12. 関係者と協働により実施した事業件数
13. バス運転士の充足率

発言者	発言要旨
会長	目標値についての説明があった。先ほどの事業内容も含めて質問などはないか。
委員	デジタル化について、マイナカードとの連携に興味がある。この連携というのはどのようなイメージか。
事務局	計画書素案では先進事例として前橋市を挙げている。マイナカードとICカードを連携して、例えば特定の住所の方に割引をすることも簡単にできるようになる。マイナカードを持ち歩かなくてもICカードだけでそのようなサービスを受けることができるメリットもある。
委員	目標9でICカード利用率が挙げられており、算出方法を見ると路線バスが対象になっている。まず公共交通をしっかりと運行して利用していただくのが大事で、公共交通の利用者が増えることにより、市の補助金額が下がることが大命題である。IC化は大きな利便性向上になるかと思う。徳山駅～下関駅も来春にICカード化するというので、ぜひとも目標値を鉄道も入れた全体の利用率、または市民全体のICカード所持率などに変えていただくことはできないか。毎年市全体でアンケートをとっているなら、何年かに1回把握する方法はないか。意識の向上を図りながらデジタル化・IC化のために、ぜひご検討いただきたい。
会長	免許返納の促進にも活用できるのではないか。
事務局	ICカードは鉄道でも使えるので目標設定は改めて検討する。市民アンケートで整理できるかについては、即時回答できないため後日回答としたい。本日意見記載シートを配付しているので、ご意見をいただければ個別に回答する。
委員	基準点の数値が「一件」となっているところがある。前計画では「0件」と表現されている。漢数字の「一件」とも読めるので、「0件」という表示が

	いいのではないかと。また、前計画で実施できなかった項目もあるが、今回数値目標が挙げられていて少し心配するところもある。新たな項目として設けるなら、斜線で引いて新設と表示するなどの方法もあるのではないかと。
事務局	横棒部分について、前計画で「0件」としていたので整合を図るように「0件」とする。 前計画で結果が0件だった目標に、数値目標に入っている件については、実施したいという件数を記述している。例えば、交通結節点の整備件数は、具体的に下松駅やサンリブ下松、周南記念病院などを見込んで3件としている。目標に向かって推進していきたい。
委員	この資料をもって私たちも市民も希望を持つ。60ページの下松駅南口の写真は、理想と逆の姿で人が1人も写っていない。この会議の内容と比較して異常ではないかと思う。
事務局	例えば朝の通勤通学時間帯など、人が利用している写真に差し替えるようにしたい。
委員	提案する。目標に幹線の運行便数の維持とあるが、鉄道とバスが並行して運行している部分もある。下松駅の自由通路にサイネージを設置する話があったが、例えばバスと鉄道を含めたサイネージの設置を市の財源でご検討いただけないか。それによって下松駅に来た時に鉄道がないときはバスに乗ってもらえるという選択肢を増やす効果が期待できる。データの提供や設置に向けての調整もあると思うが、利便性向上・利用促進にもつながると思うので検討していただきたい。
会長	個人的にはタクシー台数もサイネージに表示できると良い。
事務局	鉄道と並行して運行するバスもあるので、どちらも選択肢になる。サイネージに鉄道を含めると言う新しいご意見をいただいたので、検討したい。
会長	他に意見はないか。 今まで出たご意見は、素案の軽微な修正の範囲ということで、事務局、このまま諮ってよいか。
事務局	可能な範囲で検討、修正していくので、そのようにしていただきたい。
会長	今の素案を事務局で修正し、1月中旬に実施するパブリックコメントの案とすることでよろしいという方は挙手していただきたい。
	(全員挙手)
会長	全員挙手である。

その他

発言者	発言要旨
事務局	連絡事項が2つある。 今回の協議について、ご意見や質問があれば本日配布した意見シートに記入しご回答いただきたい。来年1月6日(金)を期限とさせていただきます。 資料2-4のとおり、次回協議会は、来年3月9日または10日に開催した

	いと考えている。
会 長	1月中旬からパブリックコメントを行うので、今日のご意見と1月6日までにご意見を踏まえ、事務局で修正を行う。 全体についてご意見はないか。
委 員	弊社は下松市と光市との間を運行している。コロナの影響がかなり大きく、高速路線を中心に利用が戻らず大変厳しい状況である。不採算の高速路線を中心に見直しているが、一般路線も見直しをせざるを得ない状況になってきている。今後について、計画に掲載されていることが実施できないこともあるので、そのように認識していただきたい。
会 長	目標数値は今現在のということで掲載するが、利用促進を含め皆で考えないといけないという大きなご提言だと思う。
事務局	事業者と定期的に協議の場を設けており、厳しい状況というのも把握している。日常利用を促進するという事で多方面から事業を組み立てている。これを推進する中で、市内の交通が持続可能なものになるように素案を作成している。みなさんと連携を図り、1回でも乗ってみるところからご協力をいただきたい。
委 員	79ページの評価指標3「公共交通の維持にかかる行政負担額」の目標値が現状維持になっている。私は、今後行政負担は増えていくと思っていたので、こういう状態であるから公共交通に乗ってくださいということを市民に知らせるのが必要ではないかと思っていた。しかし、目標が現状維持なら何もすることはない、利用者が増えるかどうかは関係ないのではないかと。自分が思っていたことと違っている。現状維持で間違いはないか。
事務局	これだけの費用がかかっていることを知っている市民は少ないと思う。おっしゃる通り、市民に示すことが重要である。 目標値については、今、コロナ禍で減収している中、さらには時代背景や人口減少などを踏まえ、行政負担を下げられるかどうかをまず考えた。しかし、財政負担を下げることが目的にはならないと思う。利用者が増えることで結果的に財政負担が下がるのが良い。他市町の計画を見ても現状維持が大半であった。考え方をうかがったところ、交通事業者の状況が非常に厳しい中、負担額が下がるような目標設定は望ましくはないとのことであった。
会 長	まずは現状を市民に知っていただくことかと思う。
委 員	先週金曜日に3月18日のダイヤ改正についてプレス発表した。下松市については、在来線のダイヤは変わるが、運行本数は維持。そのほか、新幹線に変更がある。 また、ICカードについて2日前に発表した。徳山駅～下関駅もICOCAが利用できるようになり、山陽本線全線がICカード対象になった。他には山口線の一部でも利用可能になる。
会 長	以上をもって、令和4年度第3回下松市地域公共交通活性化協議会を閉会する。

— 委員名簿 —

	所属	役職	氏名
1	下松市	企画財政部長	真鍋 俊幸
2	防長交通株式会社	営業部長	河合 貴志
3	中国ジェイアールバス株式会社	運輸部生活交通活性化推進室 室長	河内 政好
4	西日本旅客鉄道株式会社 広島支社	山口地域共生室 課長	中村 恭昌
5	メトロ交通株式会社	取締役	河村 英輝
6	一般社団法人 山口県タクシー協会	理事	清水 延隆
7	下松市自治会連合会	会長	田中 豊
8	シニアクラブ下松	副会長	岩本 昇
9	社会福祉法人 下松市社会福祉協議会	常務理事	相本 美重子
10	下松市小・中学校 PTA 連合会 母親委員会	代表	西村 和歌子
11	下松市連合婦人会	会長	古田 尊子
12	下松市	健康福祉部長	瀬来 輝夫
13	中国運輸局山口運輸支局	首席運輸企画専門官	山田 敏行
14	私鉄中国地方労働組合 防長交通支部周南分会	分会長	弘中 賢男
15	中国地方整備局 山口河川国道事務所	交通対策課長	三浦 道人
16	山口県周南土木建築事務所	企画調査室主幹	壽恵村 良成
17	下松市	建設部長	久保田 幹也
18	下松警察署	交通課長	田川 勇
19	徳山工業高等専門学校	土木建築工学科教授	古田 健一
20	山口県観光スポーツ文化部	交通政策課長	渡邊 昭博
21	下松商工会議所	専務理事	安野 政行
22	下松商業開発株式会社	代表取締役	金織 平浩